

救急救命学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1 年	31	救急症候学Ⅱ
1 年	39	疾病救急医学Ⅲ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-03				
	●	●		●						
科目名	救急症候学Ⅱ				単位 認定者	鈴木 宏俊		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		20 回	
授業の概要	救急救命士が傷病者に接触したときに、最初に得る情報のひとつが症候であり、その理解は救急救命の現場を組み立てるうえで非常に重要である。「救急症候学Ⅱ」では、主に呼吸困難、咯血、一過性意識消失と失神、胸痛、動悸等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。									
到達目標	1. 呼吸困難の症候・原因全般、緊急度・重症度、観察、処置等を説明できる。 2. 咯血の症候・原因全般、緊急度・重症度、現場活動等を説明できる。 3. 一過性意識消失と失神の症候・原因全般、現場活動等を説明できる。 4. 胸痛の症候・原因全般、緊急度・重症度、観察、処置等を説明できる。 5. 動悸の症候・原因全般、緊急度・重症度、観察、処置等を説明できる。									
学修者への期待等	今日置かれている救急活動の重要性を認識し、どのような症例にも冷静に迅速的確な緊急度・重症度の判断と現場対応ができるよう知識、技術をしっかりと習得してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	呼吸困難① 定義・概念、分類					【事前・事後】標準テキストの呼吸困難を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
2	呼吸困難② 原因疾患					【事前・事後】標準テキストの呼吸困難を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
3	呼吸困難③ 随伴症候					【事前・事後】標準テキストの呼吸困難を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
4	呼吸困難④ 緊急度・重症度の判断、現場活動 効果確認					【事前・事後】標準テキストの呼吸困難を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
5	咯血① 定義・概念、分類、咯血による影響					【事前・事後】標準テキストの咯血を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
6	咯血② 原因疾患					【事前・事後】標準テキストの咯血を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
7	咯血③ 判別を要する病態					【事前・事後】標準テキストの咯血を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
8	咯血④ 緊急度・重症度の判断、現場活動 効果確認					【事前・事後】標準テキストの咯血を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
9	一過性の意識消失と失神① 定義・概念、原因					【事前・事後】標準テキストの一過性の意識消失と失神を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
10	一過性の意識消失と失神② 原因					【事前・事後】標準テキストの一過性の意識消失と失神を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				

回	授業計画	準備学修
11	一過性の意識消失と失神③ 緊急度・重症度の判断	【事前・事後】標準テキストの一過性の意識消失と失神を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
12	一過性の意識消失と失神④ 現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの一過性の意識消失と失神を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
13	胸痛① 定義・概念、発症機序	【事前・事後】標準テキストの胸痛を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
14	胸痛② 原因疾患	【事前・事後】標準テキストの胸痛を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
15	胸痛③ 緊急度・重症度の判断	【事前・事後】標準テキストの胸痛を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
16	胸痛④ 現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの胸痛を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
17	動悸① 定義・概念、発症機序	【事前・事後】標準テキストの動悸を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
18	動悸② 原因疾患	【事前・事後】標準テキストの動悸を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
19	動悸③ 随伴症候	【事前・事後】標準テキストの動悸を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
20	動悸④ 緊急度・重症度の判断、現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの動悸を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社	
参考文献	「新版からだの地図帳」佐藤達夫監修、講談社	
備考	*授業内で小テストを実施する。 *小テスト、効果確認については、次回の授業でフィードバックする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かし、通信指令室（119番受付）では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に務めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-03				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学Ⅲ				単位 認定者	鈴木 宏俊		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。血液・免疫系疾患は、アナフィラキシーを除けば傷病者の救急搬送時に問題となる機会は少ない。ただし、貧血や出血傾向等は重症傷病者に附随する病態であることが多く、観察や処置を的確に実施するためには、その基本的な理解が必須である。筋・骨格系疾患は、強い疼痛や歩行困難のために救急搬送される頻度が比較的高いが、緊急度は概ね低い。ただし、一般的な主訴である腰痛をきたす疾患には大動脈疾患や腎疾患が、肩の痛みをきたす疾患には心筋梗塞等が含まれており、頻度は低い緊急度・重症度は高い疾患であるケースもあるため、慎重な判断が求められる。皮膚系疾患は、皮膚病変が内臓疾患と密接に関連している場合が多く、皮膚所見のみならず、全身疾患の部分症状として認識する必要がある。「疾病救急医学Ⅲ」では、血液・免疫系疾患、筋・骨格系疾患、皮膚系疾患、感覚系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。									
到達目標	1. 血液・免疫系の疾患、発症機序、症候、観察、評価、処置等を説明できる。 2. 筋・骨格系の疾患、発症機序、症候、症候、観察、処置等を説明できる。 3. 皮膚系の疾患、発症機序、症候、症候、観察、処置等を説明できる。 4. 眼・耳・鼻の疾患、発症機序、症候、症候、観察、処置等を説明できる。									
学修者への期待等	今日置かれている救急活動の重要性を認識し、どのような症例にも冷静に迅速的確な緊急度・重症度の判断と現場対応ができるよう知識、技術をしっかりと習得してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	血液・免疫系疾患① 総論					【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
2	血液・免疫系疾患② 血液系疾患					【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
3	血液・免疫系疾患③ 免疫系疾患					【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
4	血液・免疫系疾患④ アナフィラキシー					【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
5	血液・免疫系疾患⑤ アナフィラキシー 効果確認					【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
6	筋・骨格系疾患① 総論					【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
7	筋・骨格系疾患② 脊椎疾患					【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
8	筋・骨格系疾患③ 脊椎疾患、関節疾患					【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
9	筋・骨格系疾患④ 関節疾患					【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
10	筋・骨格系疾患⑤ 筋疾患 効果確認					【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				

回	授業計画	準備学修
11	皮膚系疾患① 総論（救急医療における意義、皮膚系疾患の主要症候：皮疹）	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
12	皮膚系疾患② 総論（基本的対応）	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
13	皮膚系疾患③ 皮膚・軟部組織の感染症	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
14	皮膚系疾患④ アレルギー性疾患	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
15	皮膚系疾患⑤ その他の皮膚疾患 効果確認	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
16	眼・耳・鼻の疾患① 総論（眼に関する主要症候）	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
17	眼・耳・鼻の疾患② 総論（耳に関する主要症候、鼻に関する主要症候）	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
18	眼・耳・鼻の疾患③ 眼の疾患	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
19	眼・耳・鼻の疾患④ 耳の疾患	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
20	眼・耳・鼻の疾患⑤ 鼻の疾患 効果確認	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会編集、ヘルス出版社	
参考文献	「新版からだの地図帳」佐藤達夫監修、講談社	
備考	*授業内で小テストを実施する。 *小テスト、効果確認については、次回の授業でフィードバックする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かして通信指令室（119番）では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に努めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。